

八月十八日出版
東京タイムズ新聞抄譯

東方市場ニ輸送スル履造ヲ論ス
英國ニ一個ノ保護稅論者アリ
自由貿易ノ變更ヲ論ス
英國改正經濟論勸業力ノ部



4078



114
A 3178

東方市場ニ輸送スル贗造ヲ論ス



英國理財論黨ノ一新論派ニ於テ巨擘タル「ダウ
ト」氏ナルモノ英國製出ノ高品質ニ贗造アリ
テ東邦ノ買客ハ之レカ為メニ其損害ヲ被ムル
モノアリト敢テ明言シタリ抑モ此ノ英國製造
ノ綿布ニ於ケル其贗造アルコト日本人既ニ
之レヲ發見セリ而シテ其他尚ホ贗造物アルニ
未タ之レヲ知ラス然リト雖トモ外國人民ニ於
テハ疾クコト之レヲ發見スルモクアリ而シテ
英人モ亦タ當ナク之レヲ知ルニ至レリ蓋シ日

大正十一年四月
天壤候齋郵寄

本ノ民ニ於テ贗造物ノ有ラシカト殊更ニ疑ヒ
容レニ然レバ即テ紙箋ナリ依テ紙質ノ材ト
其製成ノ量目トヲ點核シ之レヲ其贗製ニ比照
シテ始メテ陶石粉或ハ白堊ヲ以テ混合セシ紙
量ト其異同アルヲ發見シタリ今彼ノ「サイ」氏
英國製造ノ斑布ノ事ヲ開陳セル尤ノ如シ
支那印度ニ輸出スル為メニ「サイ」氏
於テ製造スル所ノ斑布ハ其物質最モ疎惡ナ
リト言フ蓋シ斑布ノ如キモノヲ需用スルノ
國ニ於テハ其貧民ハ草ハニ其物品ノ硬堅ナ

ナルノコトヲ欲ス何ントナレハ其物品ノ重厚
ナルトキハ剛強ニシテ且ツ永存ニモ能シト
彼レヲ之レヲ信スレハナリ曩キニ我輩ノ開
陳シタル如ク「サイ」氏ノ製造者ハ此ノ
需用ニ資セント欲シテ麩粉及ヒ陶石粉ヲ以
テ巧ニ之レヲ製出セリ而シテ之レヲ知ラ
ザルモノハ却テ之レヲ良品ナリトセリ然レ
トモ一度雨泡ニ遇ハハ直チニ粘素ト陶石ト
ヲ滲出シテ其贗造ノ私尾ヲ暴露スベシ畢竟
「サイ」氏ノ製造者ハ眼前ノ奇利ヲ企テ

テ未夕純然タル正經的ノ業ニ復セザルモ、ナ
リ多シ。詔ル公明正直ニ利潤ヲ謀ルノ業ヲ
ナサス且ツ之レヲ失逸セント顧慮スルノ懸念
ナキカ故ナリ然レトモ其贖造ノ事ハ又シテ
トル管高局ニ於テ屢ハ論弁シタレトモ
敢テ其贖造ヲ罪スルカ如キ處置ハ未夕之レ
ヲ聞カス

斯ノ如ク彼レヲ目下贖造ニ利潤アルヲ主ト
シテ斷シテ後來ノ贏利ヲ謀ラサルハ何ソヤ
曰ク彼一旦正經的ニ反省シテ更革作業シ

造ク十午間ニ得ル所ノ利益ヨリハ目下贖
造ヲ以テセハ僅カニ一年間ニシテ其得ル所
却テ夥多ナルヲ知レハナリ曩キニ千八百
三十七年ニ於テ佛國絨菊ノ製造者ハ地中海
東邊諸國ニ於テ其贖造ノ為メニ終ニ自カ
其業ヲ失フタルカ如ク其軌轍ヲ全シク踏
ム事ヲ前知シテカラ枉ケテ此ノ算ヲ畫セ
モノ、如シ此ノ故ニ目下ニ奇利ヲ得レノ時
ハ彼等ハ斷然其醜行ヲ反省シテ改ムル事ナ
カル可シ是ニ依テ之レヲ觀レハ目下ノ絳造

ハ彼ヲ利スル所以ニテ遠ハカニ其醜行ヲ
改メ正然為ニ昂ニシタルノ刺衝鉞砧ニ現時
一ニ有ラサルモノ、如ク如何トナレハ是月
印度ノ購求者ハ此ノ物品ヲ被用スル人々ト
リ、法トモヲンカツキテ此ノ製造者ハ決シ
テ東邦ノ人種ト遭遇スル事ナク且ツ又東方
ニ於テ家々村々置然ト其非ヲ鳴ラスト云ト
ニ遠ク英國ニ棲息スル製造者ニ於テハ又夕
些ノ影響スル処、口ナシ余以為ラク之レハ刺
衝鉞砧ニナルモノハ此ニ一アリ與論之レナ

云

其與論トハ何ソヤ、曰ク其製造者ノ近隣ニ
於テ噴々其非ヲ鼓動シテ其入ヲシテ自カラ
シレノ醜行ヲ改メシムルノ説ヲ相共ニ督責
窮辱スルニアラスレハ到底正經的ノ業ニ就
ク期ナカル可ニ蓋シ與論ヲシテ茲ニ至ラシ
ムレハ其業ヲ利スル所以ナリ
編者茲ニ「エーテ、エー、ケヤレ」此カ經濟
保護稅論ヲ要約ス曰ク一國ノ獨立、其ノ
安寧、其ノ繁榮、其ノ幸福、此ノ四者ハ特
獨スル所ナク、互ニ牽聯扶持ニ相ニ寄ル

事ナクエテ漸々其歩ヲ進ムルモノナリ

英國ニ一箇ノ保護稅論者アリ

東京ダイハス記者ニ呈ス

足下カ論說ヲ讀了シ大ヒニ吾人一般ノ利害ニ
関スル所アルヲ以テ我輩ハ之ヲ黙々ノ間ニ
付スレ能ハス乃チ曩キニ投書セル一英人商賈
ニ宛テ答辨ヲ成サント欲ス足下幸ニ之ヲ

登録セヨ

我輩以為ラク彼ノ論スル處口足下亦タ全ク之
ヲ贊微スルノ意ヲ暗ニ諷スルモノナリ如
然レ而エテ其論スル言ハ往々牽合附會ノ至リ

雖云快刀ノ断ヲ以テ其真偽曲直ヲ明瞭スル
ニ成テ、ルニ言、吾人爲メニ我カ輩ノ遺憾トス
ル所ナリ蓋シ其真偽ヲ明瞭スルハ博識ニ
テラカレハ能ハサル處ニシテ英國讀者、如
クモ得テ之ヲ看破ス可ラス若何トナレハ
巧ニ其真偽ヲ淆混シタレハナリ然レトモ今ニ
シテ其真偽ヲ判然タラシメサレハ世ノ自由貿
易論者ノ惑ハ愈々深カル可シ故ニ我輩ハ敢
テ此ニ明示シ以テ此レヲ論者ノ裨益トナサ
トス

〇七

抑モ英國過半ノ人民ハ日トシテ自由貿易ノ利
ヲ聞カサルナリ終ニ耳竅モ之レカ爲メニ
聳シ以テ其是非ヲ問フニ違ラズシテ自由貿
易論ノ邪説ハ我輩ハ之レヲ邪説ト認ム一ヲ妄
信シタルノニ論者茲ニ着意セハ大悟スル處
ナリ且ツ自由貿易論ニ許多ノ巨擘アリテ
吾人ニシテ雷同シテ頻リニ其説ヲ流傳スル
際ニ響ノ声ニ應スルカ如ク然リ此ヲ以テ
一ヲ輕信スルニ幾許カ又知ル可カラス
英國ノ自由貿易論ノ行ハルヤ其景状概ニ斯

ノ如キカ故ニ彼ノ輕信雷同者ノ投書ヲ以テ足
下カ新聞紙ニ録セシト欲セハ向後必ラス
先ツ其是非ヲ明辨シ以テ英國人ノ讀ム
ニテ愕ル處アラシムシト欲スルハ記者ノ責ヲ
トモハナレヲ得ス然リ而シテ我國人民ハ斯ク
熱心ニ自由貿易論ヲ主張スル際ニ於テ我特リ
突然保護稅論ヲ公言セハ足下或ハ我ヲ以テ果
敢一リト視做ス可シト雖トモ敢テ爾カスルニ
下ラス我カ説ク所口ハ斯ノ如ク國民ノ過半カ
雷同唱和セル説ヨリ僅カニ一步ヲ進メタル而

ハ

已試ニ足下實際ニ就テ我國民ヲ探索セハ却テ
保護稅論者ノ夥多アルニ驚駭ス可シ但ニ其探
索僅カニ外面ニ止マハ則チ多カラサル可
シ如何トナレハ論者中往々保護稅論ヲ自信ス
ルモノアリト雖トモ怯懦卑屈ニシテ之レヲ公
言セザル者多ケレハナリ蓋シ其怯懦卑屈ノ此
ニ至ルモ畢竟自由貿易論者ノ為メニ束縛墾
ヲ蒙リタルカ故ナリ此ヲ以テ其探索ハ實ニ
就テ極メテ緻密ノ要スルナリ
彼ノ自由貿易論者勤モスレハ自己ノ論黨ヲ以

テ溫柔謙遜ノモノトナシ且ツ其論黨ノ性質ト
行為トヲ評シ之レヲ物ニ比セハ則チ軟弱ナル
莖菜ニ異ナラスト甸甸スルハ疑ヒナシ然レ
實際ニ就テ之レヲ糾サハ果シテ其ノ説ノ如ク
ナラザ觀ルニ難カル可シ
我輩時トシテ日本屋宇ノ屏障ニ繪ケル犬ノ如
キモノヲ觀ルニ今我輩ヲシテ其論黨ヲ評シハ
即チ此ノ犬ニ異ナラス或ハ又茲ニ一種ノ標鑑
アリ是レモ亦時トシテ日本ニ於テ觀ル處ノ銅
像ノ犬是レナリ而シテ此ノ犬タルヤ巨口ニ

〇九

テ能ク人ヲシテ其咽喉ヲ往来セシムルカハ
到底斯ル犬ノ如キ自由貿易論者ノ慄悍搏噬能
ク物ヲ殘害シ其死ニルヤ遠ク送シテ又長息ニ
堪ニルカ如キハ何物カ能ク之レニ抗スルモノ
有リヤ思フニ無カル可シ
今ハ英國ニ於テ保護稅ヲ可トスルノ説日一日
ヨリ盛ンナリ此ノ故ニ日ナラスニテ之レヲ至
張スル處ノ許多ノ經濟學士ヲ出ス可シ然レ而
シテ我輩ハ彼ノ投書家ノ意ノ如ク各國ヲシテ
自由貿易ノ定約ヲ脅迫セシムルノ論ニ於テハ

敢テ異議ニキノミナラス既ニ之レヲ實施シ以テ貿易上ノ幸福無量圓滿ヲ得ント翹望スルノ日久シ而シテ宇宙到ル處口入港自在ノ權ヲ收ムルノ日ヲ待テ我レ獨リ自由貿易ヲ發展ノ如クニ突然保護稅ヲ特行セント欲ス是レ殆シト四十年前ニ於テ我國保護稅ヲ拋棄シテ自由ノ主義ヲ採擷シタルト一般ノミ而シテ我輩ノ希圖スル所ハ彼ヨリ致タスノ物品ニ重稅ヲ課シ我ヨリ輸スノ物件ハ皆其稅ヲ賦スル事ナカラシメント欲ス我輩以為ク我國ハ漸ク保護稅

ノ十

ノ主義ヲ採リテ其局面ヲ豹變セントスルノ勢アリト言ハサルヲ得ス然リト雖トモ不幸ニシテ未タ其機會ヲ得サルモノ、如シキ機會トハ何ソヤ曰ク各國ノ開進未タ我輩ノ渴望ニタレ度ニ達セズニテ偏ニ保護稅法ニ固執ニ刺サヘ今日に至ラハ我ノ市場ハ彼ノ剝取スル所トナリ併セテ我貿易ノ利ニ及フ此ヲ以テ日ヲ待タズニテ保護法ヲ設置セハ又幾多ノ幸福アリ言ハサルヲ得ス今我輩茲ニ簡單ノ一例ヲ鈔擷シ以テ我々貿易ノ不利ヲ明示セント欲ス但シ貴

重ノ餘白ヲ充分ニ填塞スルヲ恐ル
曩キノ二年間ニ米國ヨリ我國ニ輸入スル牛
肉ノ量實ニ顆^夥多ナリ而シテ其高業ハ週一週
ヲ加ヘテ繁昌ニ其肉ハ英國ノ産ト毫モ差異
シト雖トモ其價ノ廉賤ナルト一割或ハ一
割五分ノ間ニアリ此ノ故ニ我カ屠牛者及牧
畜者ハ愕然トシテ為ス處ヲ知ラス世人思ヘ
ラク好ク此ノ如クナレハ幾滅ナラスニテ英
國牧牛ノ頭數ハ今日ノ五分一或ハ十分一ニ
減殺セサルヲ得スト然リ而シテ今マ若シ或

り上

國ハ米國ト兵端ヲ開クコトアルカ或ハ否ノ
ナルモ兩國間ノ貿易ヲ塵塞スルノカアル一
國ト開戦スルニ至ラハ我カ牛肉ノ供給ハ頓
ニ遮絶セラレテ我人民ノ餓死旦夕ニ迫ル可
シ事若シ茲ニ及ハ、彼ノトラ左ルガ此街區
ニ憐レニモ牛存空置ノ為ニ非命ニ斃レタル
英人ノ白骨堆埋シテ山ヲ為シ石ノ石碑
ノ頂上ヨリモ尚ホ高キニ至ル可シ又彼ノ碩
學マコーレー^ン氏カ著書ニ言ヘル一箇ノコト
ヲキリテ^ト人ノ如キハ龍動橋ノ壞欄ニ倚テ

悠然トシテセントホーレノ金字塔ヲ望見
スルニ非ハシテ彼ノ「イデプト」王ナル「キヲブ
スガ」大工巧ヨリモ尚ホ高ク堆積シタル白
骨ノ層塔ヲ駭觀スヘシ然ラハ今マ此ノ白骨
塔ニ向テ之レカ銘ヲ鑄スルニ當リテヤ乃チ
牛丹自由貿易ニ薦^薦享スト言ハサル可カラス
而シテ又大英國中到ル處口此ノ如キ層塔ヲ
看ルニ至ル可シ今此ノ愁雲慘怛ノ狀ヲ救フ
ノ策ハ他ナシ乃チ我カ議院ニ於テ牧畜者ヲ
保護スルニ足ルノ稅ヲ以テ米國ノ牛肉ニ課

の十一

スルニ在リ
我カ人民ハ貿易ノ自由ヲ利シテ屢々譎詐奸謀
且ツ殘忍非道ノ行為ヲナシタルノ故ヲ以テ吾
人大ニ務ムル處アリシト雖トモ今日ニ至リテ
ハ我製作工業上ニ頓敗減却ノ景狀ヲ現出シタ
リ人言ハサルヲ得ス然リ而シテ彼ノ自由貿易
論者タル投書家ハ支那阿片ノ擾亂ヨリ米製布
帛ニ高標ヲ僞用スル輩ニ至ルマテ反覆討論シ
結局我政府ノ措置宜シキヲ得タルノ故ヲ以テ
英國ノ貿易ヲ利セリト言ヒ又日本ヲシテ強テ

開港セシメ英製ノ輸入品ニ有名無実ノ関稅ヲ
置カシメタルモ亦我政府ノ策ヲ得タルモノト
言ヘリ然リト雖トモ今日果シテ我貿易ニ利ア
リトナスヤ試ニ思ヘ我人民ハ許多ノ外國市場
ニ於テ米俾獨諸國ノ為メニ早ク放逐セラル、
處ロトナリ制ナハ廉賤ノ價直ヲ以テ我國ニ輸
入シ來リ我利ハ日ニ失脚蹉躓スルニ外ナラス
故ニ貿易ノ形態累卵ノ危殆アリト言ハサル可
カラス宜シク之レヲ救フノ策ヲ講ス可キノ秋ナ
リ我輩熟慮スルニ自由貿易ハ到底我ヲ救フ

ノ十三

ノ利器ニアラサルマ明カナリ今若シ枉テ匡救
スルトセハ現時我カ貿易ノ衰敗ハ果シテ何ニ
胚胎セルモノトナスヤ即チ自由貿易ニ外ナラ
ス然ラハ則チ之レヲ醫スル物ハ何ソヤ曰ク一
ノ保護稅法アル耳、茲再歲月ヲ經過シテ此ノ
法ニ安置ノ期ヲ過ツ可カラス今我輩世間普通ノ
條理ニ依リ且ソ五十年來我英國人民ノ舊慣ニ
基ツキ其法ヲ籌畫スルト左ノ如シ
第一項 本邦ノ局面ヲ一變シテ輸入ノ物件
ニ總テ保護稅ヲ課スル事

第二項

各國ヲシテ無稅ニ我物品ヲ輸入セ
シノ且ツ其國ノ物品ヲ猥ニ輸出
スルヲ禁シ又他ヨリ其國ニ輸入ス
ルヲ禁停セシムル事

曩キ一千八百四十四年ニ當リテ我國ノ突然保
護稅法ヲ廢シテ自由貿易法ヲ採用シタリ今其
局面ニ變更スルノハ之レト異ナル事ナシ我輩
今其成跡ヲ追想スルニ果シテ能ク我カ百工ヲ
保護シ遂ニ外國ノ競争ヲ恐レテル而已ナラス
却テ之レヲ輕蔑スルニ至レリ是我輩ノ目撃シ

ノ十に

タル處ナリ今保護法ヲ廢シテ自由貿易ニ更換
シタルノ形狀ヲ以テ一箇ノ体術家ニ譬フルニ
先ッ此ノ人ハ世ノ交際ヲ絶テ專ラ日々ニ練磨
精厲ノ功ヲ積ミ遂ニ其筋骨ト呼吸トヲ健全剛
強ナラシメテ後始メテ世上ニ越出シ猛勇俠氣
ニシテ其身ヲ顧ミス多年練磨ノ技倆ヲ試ミン
ト欲シ停若無人ノ所為ヲナシテ意氣揚々然ク
ル体術家ニ異ナラス然レモ勇力頓ニ挫テ身ニ
一二ノ癥痕ヲ被ムリ右耳ハ敵手ノ為ニ齧噬セラ
レ鼻頭ハ爛レテ匾形ヲ成スカ如キ醜貌ニ至ル

ヤ期シテ待ノ可シ益ニ各國ノ勢威猶ホ我ト均
シク且ツ我々貿易ノ力ヲ挫折セラルノ間ハ素
ヨリ我國ニ彼ノ鳶肩廣膊ノ体術家ヲ學ハサル
可カラスト虽トモ醜貌ノ恥辱ヲ豫メ今日ニ戒
メ自由貿易ヨリ一旦退去シテ保護家トナリ其
幹樞ヲ磨練強健ナラシムルノ間ハ宜シク其鈴
鐸ヲ鳴ラサハテシムルニ若カサルナリ
今第二ノ方法ヲ施行スルニ當リ先ツ海陸ノ軍
ヲ師ヒ宇宙ニ縱横シ到ル處皆我條欵ヲ遵奉セ
シメ以テ英製ノ物品ヲ總テ無税ニテ輸入セ引

ノ十五

水料或ハ税関ノ諸經紀費ヲモ拂ハス加之税関
ヨシテ英吏ノ掌握中ニ在ラシメテ其國ノ物件
ヲ輸出スルノ際ニ当リ之レカ賦税ノ權力及ヒ
英國ノ外一切他ノ輸入ヲ拒絕スルノ権柄ヲ有
スルニ在リ若シ固陋頑愚ノ民アリテ此ノ法ノ
公平ナルヲ覺悟セサルモノ有ラハ則テ砲聲雷
ノ轟ク如ク彈丸雨ノ注ク如クニシテ其迷夢ヲ
警醒セシメント欲ス
抑モ我設置シタル法タルマ苟シクモ殊異ノモ
ノニ有ラス旧来各國ト我トノ間ニ締約セル條

約中素ヨリ此ノ理由ヲ包蔵セリ只試ニ其理
由ヲシテ毫ホノ添削アラシメハ乃チ其殊異ナ
ラナルヲ知ルニ足ル可シ此ノ故ニ支那日本印
度及ヒ其他各國ニ於テ旧来ノ我カ處法ヲ一轉
セハ則チ我カ施行セシトスルノ法ト毫釐ノ差
ヒアルナシ

嘗テ「インド」エルチニノ東邦ヨリ寄送セル書
翰ニ印度支那地方ニ於テ我民ノ行フ処ヲ嫌惡
シタルノ語アリ則チ千八百六十年ニ彼ノ上海
ニ行ク途上ニ於テ印度景況ノ紀事中「五月二十

二日」左ノ言ヲ吐露セリ曰ク東洋地方一展弱ノ
人種ニ向テ英人所為ノ苛刺殘忍ナル或ハ上帝
赫怒シテ懲罰ヲ降スニ當リ余ハ何等ノ物ヲ以
テ能ク之レヲ防ケンヤト又曰ク悲哉我レ務メ
ン欲セハ愈我國ノ文明ト宗教トハ僅カニ外
貌皮相ニ止マリテ其實ナキヲ明示スルニ外ナ
ラズト今我輩之レニ答フルニ當リ然ル可シ
ト言ハサルヲ得ス蓋シ我國ノ東邦ニ畫策スル
所今日ニ至ルマテ此ノ如シ而シテ此ノ策ハ尚
前途ニ期セサル可クマ唯膽力卑弱ニシテ動モ

スレハ我カ所為ニ憤怒ヲ懷ク処ノ人ヲ遠サケ
ント欲シ詭謀百出我真意ヲ晦韜セントモ
到底虚飾ヲ免カレス故ニ之レヲ為スモ亦何シ
ノ實益カアラシヤ要スルニ我カ民ノ要訣タルヤ
貿易ハ鮮血ヲ以テ買フニ在リ我輩熱往時ヲ回
顧セハ我人民ノ所為ハ實ニ狼襲非道ニ出テ今
日之レヲ再ニ行フ能ハサル事ヲ為シタリ此ヲ
以テ一月モ早ク各國ヲシテ我カ本色ヲ悟ル處
アラシメハ亦我輩ニ一日ノ幸福アリト言ハサ
ルヲ得ス

今亦茲ニ一月モ忽諸マ可ラサル事アリ何ソヤ
曰ク直接或ハ間接ニ万国ノ貿易ヲ海面ヨリ掃
除スルニアリ曩キニ聯邦南北ノ争乱即チ千八
百六十一年ヨリ六十四年ニ至ルノ間ニ於テ教
門ニ大砲ヲ軍艦ニ装シ護ルニ英人ヲ以テセル
教艘ノ海軍ヲ米國ニ差遣シ飽マテ局外中立ノ
段面ヲ表彰スルカ為メニ慶ニ應スルノ官吏ヲ
搭載セシメテ遂ニ米國ノ貿易ヲ破壊シテ我輩畧
シ成セリ而シテ我カ外務卿「ロールド・ジョン・ルッナル」
ヨリ千八百六十一年ニ「ワシントン」ニ在苗セ

ル我公使「ロ」ド「リ」オン「ス」ニ通スルニ米國政
府ニ迫マリ敵船捕獲ノ免状ヲ其人民ニ許可ス
ルヲ停止スルヲ許諾セシメタリ然レトモ若シ
該政府ニ於テ南部黨ノ國ニモ亦此ノ事ヲ要サ
ント欲セハ此條約ヲ決スル勿ラシメリ之レヲ
約言セハ我輩ハ米政府ノ両手ヲ束縛シ其反黨
ヲレテ欲スル処ニ任セタルカ如シ蓋シ何レノ
國ヲ問ハス我人民ハ常ニ反逆ノ~~党~~派ニ與ミス
ル所以ノモノハ概子斯ノ如ク手段ヲ以テス故
ニ争亂ニ禁止スル物品ヲ陰ニ密賣シ愈々我カ質

易ヲ獎勵シ以テ争鬪ヲ久シク止マサレシメ併
セテ各国ノ貿易ヲ瓦解セシムルニ在ル可シ
現時日本國擾亂ノ反黨ニ於ケルヤ我輩ホタ之
レヲ對峙ノ交戦ト認ムル程ニ至ラサルハ失望
スル処ニシテ不幸ト言ハサルヲ得ス如何トナ
レハ之レヲ對峙ノ交戦ト認ムルニ於テハ我輩
好ク其時機ニ投シ私船ヲ發航シ日本ノ貿易ヲ
瓦解セシムルニ在リ唯願フハ我カ策ヲ遂ケル
好時機ノ至ルヲ待ツ而已
千八百七十七年八月十七日

在東京

一英人

自由貿易ノ變更ヲ論ス

東京「タイムズ」記者ニ呈ス

古哲「シロ」言ヘルアリ曰ク二介預言者各其未
來幽冥ノ事ヲ語ルニ當リ拍手笑和シテ息ハニ
アラサレハ氷炭相容ル、ノ期ヲ會得スル能ハ
ス、今往事ヲ追想スルニ二十五年或ハ三十年
前ヨリ自由貿易論ヲ主張セル二介ノ高僧アリ
思フニ今日ニ至ルモ尚ホ彼レ持重シテ其說ヲ
變セサル可シ其說ク處ニ據レハ保護政策ヲ以
テ國內百ノ工業ヲ誘振慫慂セシトスルハ早晚

ワナ

我税関ヲ以テ一ノ妨害物ト成ヌヲ免レヌ且ツ
其輸入税々関ノ收税費及ヒ其他臨時諸費ノ如
キモ併ニテ皆物品諸消費者ノ間接ニ之レヲ償
フ所以ヲ明示スルニ外ニテ是レ黙クシテ其
策ノ拙ナルヲ看ルニ足ルト歎々嘖々タリ而シ
テ當時世人ノ此論ニ左祖セサルモノアレハ或
ク愚ト喚ビ狂ト呼ビ慢罵止マヌ唯言フ之レト
論辯ヲ費スモ益ナシトセリ然リト雖トモ今時
自由貿易論者ハ一般ニ惡言詖辭ヲ止メ稍々着
實ノ言論ヲ成ヌニ至レリ是レ我輩ノ實視スル

ソコ

所ナリ
抑モ米國保護政策ノ目的ハ物ヲ製スル人其
之口ヲ消費スル人トヲシテ接隣受授セシムル
ニ在リ而シテ彼ノ費府ノ博覽會ニ於テ世ノ深
慮者ヲシテ此ノ目的ノ大ヒニ奏功シタル實蹟
アルヲ領會セシメタリ此ヲ以テ英國新聞ノ許
多主領ノ者モ皆以テ之レヲ然諾公言シタリ蓋
シ其直筆大ヒニ贊稱スルニ足ル然ルニ其中眼
ヲ閉シテ之レヲ否テストスル者ハ總カニ千百
ノ一二ニ過キヌ「ジヤパニ」ノ如キモノ是

ナリ偶々世人之レヲ知ラハ彼ノ一个囚人ノ旅
頼ヲ受タテ訟師ノ物語ヲ想ヒ起スヘシ之レヲ
演説スルニ其訟師ハ現在獄中ニ繫カレタル托
訟者即チ囚人ノ言ヲ聽テ言ヘラケ汝恐懼スル
ト勿レ法官豈ニ該事ノ為メニ汝ヲ獄ニ繫ケテ
能クス可ケンヤト不幸ナル托訟者之レニ答ヘ
曰ク然レトモ今吾レ現在縲絏ノ中ニ在リ願
クハ足下吾ヲ欺罔スルノコトヲ吐ク勿レト言
フ又之レニ答フルニ法官豈ニ汝ヲ罔罔ニ古ク
ヲ能クス可シヤ余断然汝ニ告ク法官ハ之レヲ

〇五

成ス能ハスト言ヘリ
今「メ」ル新聞ノ言ヘル處ハ恰モ彼ノ訟師ノ言
ニ等シ而シテ「倫敦タイムズ」^{「ポール、モール」}ガセツ
「ゲラフヒック」毎日新聞及ヒ其他諸新聞ハ異口
同音ニ保護ノ大ヒニ奏功シタルヲ公言セリ故
ニ我輩以為ラケ彼ノ貴府ノ事ハ英國許多ノ自
由貿易論者ニ取ラハ酸醎ニミテ口ニ適合セザ
ルノ事跡ト言フ可シ就中博士「ケール」^{「ス」}ノ教訓
授業ヲ受テタル論黨ハ憤懣ニ堪ヘサル可シ如
何トナレハ彼輩カ曩キニ預言シタル説ハ今日

果シテ世人ヲ欺ケルモノトサレタルノ故ヲ以テ
テ適々語塞ヒテ答フル處ヲ知ラサレハナリ況
ンヤ現時上等ノ新聞ハ許多看客ノ意ニ逆スア
ルモノ之レカ為メニ事實ヲ陰藏シ或ヒハ之レヲ
否ラストナスカ如キ所為ハ苟クモ之レヲ成サ
ル事ヲ漸ク英人悟リ得テ其迷夢ヲ開散シタ
ルニ於テヲヤ
自由貿易ハ既ニ歐洲各國殆ント皆之レヲ試ミ
テ其利器ニアラサルヲ發見セリ故ニ各國ノ締
約中貿易自由ノ主義ヲ含蓄セリト雖モ却テ自

由貿易ハ日ニ月ニ其跡ヲ絶ツノ勢ニアリ之レ
ニ反對ニテ通常ニ保護法ヲ試ミタルノ國ニ於
テハ皆赫々煥々タル功績ヲ顯ハサ、ルハナシ
是ヲ以テ保護家ノ論鋒ハ自由貿易論者ニ向テ
頻フル尖銳激烈ニシテ頻リニ其持論ノ變更ヲ
督促ス然レトモ其辨解スル所ヲ聞クニ一トシ
テ甘心スヘキモノナク到底矛盾牴牾ノ言ヲ免
カレサ、故ニ終ニ我輩モ之レカ為メニ進退
維谷マリ坐口ニ悲哀ノ情ヲ興起スルニ至レリ
然ルニ豈料ランヤ五月癸亥、英國貿易雜誌ヲ

一讀シ一ハ以テ吃愕シ一ハ以テ大ヒニ憂慮ヲ
慰スル所アリ依テ今左ノ一編ヲ抄摘ス

米國ノ景状及ヒ海關稅ヲ論ス

米國ニ於テ新々ニ一大統領ヲ撰任セラレタ
ルヤ否ヤ海關稅法ヲ改制シ以テ少モク其束
縛ヲ芟除セントスルノ光景一時現出シタリ
ト雖モ今日ニ至リテハ斯ク財政ノ一反動ヲ
ラニコトハ到底期望ス可ラサル處ニシテ且
歐米間貿易ノ衰頽ヲ將來ニ挽回セシムル
力如キ景况ハ豈ニ斯ノ如キ捕風逐影的事

ニ回テサルヤ愈明瞭ナリ故ニ米國ハ勿論歐
洲各國ニ於テ今日自由貿易論ノ蕭索トテ
其勢ヲ得サルヲ見ルハ豈ニ又痛歎ニ堪ヘヤ

然リト雖トモ遠ク眼ヲ萬國ノ間ニ放シ看レ
ハ必ラスヤ卓見ノ士アリテ貿易ノ束縛セサ
ルニ利アルヲ明知シ斷乎トシテ之ヲ公言ス
ルモテアリ蓋シ英國稅關收稅ノ方法ハ緩ニ
遠セス嚴ニ失セス能ク其中庸ヲ得タルノ間
稅ニシテ其稅關ハ邦家ヲ維持スル為メノ巖

入ヲ徴收スルノ用ヲナスニ止アリ天下復タ
此ノ如キ税関アルナシ試ニ看ヨ米國税関ノ
如キ大ヒニ其用ヲ異ニスル處アリ之レヲ
明言セハ則チ人爲ノ屏柵ニシテ自國ノ工業
ヲ蔽庇スル所以ナリ故ニ一旦之レヲ除去ス
ルニ於テハ製造者ハ到底他國ノ廉賤ナル勞
力生財ニ拮抗シテ其業ヲ維持スルヲ能ハス
ト竊カニ皆之レヲ思ヘリ且「口」ニトシテ當
局者ハ歐洲ニ其供給ヲ仰カサルノ目的ヲ以テ
斯ク人爲ノ屏柵ヲ設ケタルハトテ歲入中至

大至重ノ基本タル海關稅ヲ潰滅スルカ如キ
モノニアラスト定斷シタルモノ、如シ
我輩以為ラク地方廣莫寒暑百端ニシテ能ク
萬物ヲ產生スル米國、如キハ多年ヲ經スニ
テ其需用殆ント皆自カヲ辨ニ且ツ奢侈ノ物
品モ大ヒニ自製スルノ域ニ至ルヤ明ラカナ
ル可シ而シテ此ノ域ニ至ラハ宜シク海關稅
ヲ減少シテ僅カニ風韻技藝ニ涉ルノ物品ノ
ミニ之レヲ課賦シテ止ム可シ唯言フ斯ノ如
クセハ其要求ハ幾分カ減少スルハ素ヨリナ

現時ノ如ク格外ノ関稅ヲ徵收シ以テ内國ノ
百工ヲ勸奨セシト欲スト雖トモ終ニ其弊害
ノ至ル處ハ政府ヲ維持スルノ歲入如何セハ
辨ス可キヤ又國債ノ利子如何セハ償却スル
ヲ得可キヤノ事故ヲ釀出セサルヲ得ル可
シ是ニ於テヤ之レカ計ニ充ルモノハ茶ト加
排ニ如クモノナカル可シ蓋シ米國未タ此ノ
至重ノ産物ヲ耕植セスト雖トモ其功効
ヲ果ス可シ然レトモ支那人ノ慧智早ク之レ

ヲ知ラハ適宜ノ地ヲ發見シ以テ製茶ノ業ニ
從事スルハ豫シメ今日ニ於テ敢テ毫厘ノ新
念ナシ而シテ加排ノ結果如何ヲ占察スルニ
嘗テ「シ」ロヒ及ヒ印度地方ニ於テ之レヲ植
藝シタル時ト其成功相ニ等シカル可シ
我輩今此ノ一編ノ論旨ヲ察スルニ熱心無二ノ
保護稅論者ノ著述ニ出テ婉曲ニ英國貿易雜誌
ノ論ヲ頗アル駁撃シタルモノト想像スルモ恐
ラクハ其當ヲ失セサル可シ東京「タイムズ」記者
先生ハ何等ノ見解アルヤ知ル能ハスト雖トモ

恐クハ亦一編ノ珠玉ト看做サ、ランカ
然リト雖トモ彼ノ記者ハ之レヲ以テ戲言或ハ
辨駁ト見做サ、ルハ平索實着ヲ主トスルノ致
ス處ニシテ且ツ其新聞紙上掲載スル處一トシ
テ確實的ノ事ニアラサルハナシ而シテ其新聞
紙ノ值價極メテ廉賤ナリト雖トモ其記者ニ於
テハ豈ニ馬ニリ論駁ヲ被ルカ如キ豆眼論者
ニ非サルヲ知ラン乎況シヤ其言ノ實着ニシテ
且ツ熱心ノ保護論者ニアラサルニ於テヤ豈
ニ如此ク保護法ヲ渥美スルモノナランヤ彼ノ

論者ハ英國ヲ除ク、外各國ニ於テ自由貿易ノ
擴行セラレタルヲ視テ為メニ痛歎スル憂アリ
今若シ世ノ保護論者ヲシテ愚人或ハ駑馬ナラ
トトセハ其痛歎スル處口正鵠ヲ過メラサルモ
トト言フ可シ就中輓近自由貿易ノ衰廢ニタル
カ故ニ其痛歎スル處口大ニニ理アリトス然ル
ニ今其論スル處ヲ僅カニ讀下ニ來レハ突然保
護稅論ヲ發シ終ニ我カ輩ヲシテ未タ曾テ聞知
セザル的ノ熱心過激ナル保護家ノ真面目ヲ顯
ハシタリト言ハシムルニ至レリ如何トナレハ

其論ニ曰ク地方廣漠寒暑百端ニシテ能ク萬物
ヲ產生スル米國ノ如キハ多年ヲ經スシテ其需
用殆ント皆自カヲ便シ且ツ奢侈ノ物品モ大
ニ自製スルリ域ニ至ルヘシト明言シタレハ十
リ蓋シ今日ニ至リテハ或ハ自由貿易論者ハ之
レヲ然リト為スコト雖トモ十年若シタハ五
年前ニアラシメハ孰レカ之レヲ然リト為ス者
アラシヤ
又彼ノ論者曰ク海關稅ヲ減少シテ僅カニ風韻
技藝ニ涉ル物品ノミニ之レヲ賦課シテ止ム可

シ云々政府ヲ維持スルノ歲入如何セハ便不可
キヤ又國債ノ利子如何セハ償却スルヲ得可キ
ヤノ事故ヲ釀出セサルヲ得サル可シト言ヘリ
此ノ一段ニ至リテハ妄誕無稽其愚論ニ亦甚シ
ト言フ可シ是レ我輩ノ憂慮ヲ慰スル所以ナリ
米人ハ保護ノ以テ工業ヲ獎勵スルノ功績ナキ
ヲ見テ之レヲ廢止セシトスルヤ稍ヤ久シト言
フ果シテ此ノ說ノ如クナラハ英國人民力噴々
詰難スル處ノ保護法ヲ廢シ以テ其政府ノ收穫
ヲ減殺スルニ至ル可シト言ハサルヲ得ス今彼

ノ論者ニ從ヘハ其收穫ヲ減スル、米國一般ノ
災害ヲ招クカ如シト論定シタルカ如シ如何ト
ナレハ保護法ノ為メニ得ル所ノ收税ハ内國ノ
直税法ニ仍ルモ決シテ之レヲ收納スル莫能ハ
サルモノト臆測シタレハナリ是我輩ノ了會ス
ル莫能ハサル處ナリ
然リ而シテ保護政策ノ為メニ生スル處ノ税関
ノ收税費及ヒ其他ノ諸費海關税ヲモ併セテ皆
間接ニ消費者ノ頭上ニ墮落スルモノナリト世
人之レヲ嘆惜スルカ為メニ米人ノ耳竅已ニ聳

スルニ至レリ又米國ノ税関ハ内國ノ租税ヲ補
助スルノ一點ヲ除クノ外カ嫌惡ス可キ妨害物
ヲ免カレズト世人之レヲ喋々スルカ為メニ米
人ハ又之レヲ聞クヲ厭ヘリ然ルニ彼ノ論者ハ
保護法ヲ廢シ其收穫ヲ得サルニ於テハ到底政
府ヲ維持スルノ歲入ヲ得難シト明説シタリ今
米國人民ハ之レヲ聞テ果シテ何等ノ思想ヲ喚
起スルヤ
今又彼ノ論者ニ從ヘハ自立ヲ維持スルニ足ル
事業ヲ發見スルニ若クモノナレト断定シタル

ヤ明カナリ而シテ又之レヲ發見セタルノ後ニ
至リテ假令保護ヲ受タル工業一度破壊スルコ
トアルモ一旦回來ノ收入税ヲ悉皆廢止シ僅カ
ニ欠ク可ラサルノ物品ノミニ更ニ適度ノ税額
ヲ定メ以テ永ク之レカ輸入ノ利ヲ享有シ且前
章ニ言ヘル如ク諸細工物類ヲモ亦税ヲ課スレ
バ假令其價騰貴ニ且ツ幾分カ自由貿易ノ主義
ヲ犯ス事アルモ亦永ク其輸入税ノ收獲ヲ得ル
ノ利アリト臆測シタルモノ、如ク
却說我輩今茲ニ世ノ自由貿易論者ニ向テ一言

ノ鐵砲トス可キ事アリ何ソヤ彼ノ輩カ平素保
護政策ヲ誹謗スル處ヲ聞クニ輸入税ヲ貧ホリ
テ却テ其功效ヲ見サルハ今日マテ徒ラニ之レ
ヲ聚歎シタルニ止マレリト言ヘリ是亦一種奇
怪ノ妄想說ト言ハサルヲ得ス然レモ地方廣漠
寒暑百端ニシテ万物ヲ產生シ能ク自ラ其需
用ヲ弁スルノ國ニシテ却テ之レカ為ノニ利源
遂ニ涸レテ邦家ヲ維持スル事能ハサルノミナ
ラス其国債ヲモ亦償却スル事能ハスト喋々之
レヲ并論スルニ至リテハ其愚モ亦及ハサル

論説ト言フ可シ
抑モ斯ク愕然ス可キ論説ノ主意ノ帰着スル所
ハ何ゾノ點ニ在リヤ我輩ヲ以テ之レヲ視レハ
邦家自立ノ計ハ今日ニ至ルマテ保護法ヲ以テ
良ク其處ヲ得タルカ故ニ將來ノ計モ亦々保護
政策ニ若クナカル可シトノ主意ナル可シ

二八百七十七年八月十五日

在東京

質問者

英国改正經濟論

ダウソット、サイム述

第二論 勸業カ

勸業トハ人々ヲシテ勞役ニ就カシムルノ義
ニシテ即チ勞役上ニ関スル所ノ凡百ノ人欲ヲ
指シテ勸業カト云フ而シテ此ニ記載スル勞役
トハ富有ヲ産出シ或ハ又之ヲ變化セシトスル
ノ目的ヲ以テ勤勞スルモノヲ云フ但シ富有ノ
意義ハ經濟學上ニ於テ人々ノ情意ヲ満足セシム
ルノ事物ニシテ且ツ交換カヲ兼有スルモノヲ

云々ナリ
今性理學士ノ常ニ分析スル所ニ從ヘハ人欲ヲ
分ツテ二トナス曰ク私欲オレトリエスチク曰ク無欲オレトリエスチク是ナリ然リ
而シテ論理學ノ演繹ユク法ニ依ルキハ之ヲ分析シ
テ三種トナサハルヘカラス如何トナレハ此法
ニ依テ事物ヲ演繹ユクスルキハ先ヅ一事實ノ茲ニ
顯ハレタルヲ視テ之ニ牽連類屬スル種々ノ事
實ヲ考究明辯シ遂ニ事物ノ真理ヲ發見スル所
以ニシテ之ヲ論理學上ノ通語ヲ以テ説クキハ
乃チ有形一事實ノ如シヨリ集成オウジツ牽連類屬スル

種々ノ事實ノ如シニ至リ集成オウジツヨリ無形事物ノ
真理ノ如シニ論及スレハナリ今コノ法ニ倣ヒ
人欲ナルモノヲ演繹ユクスルニ於テハ私欲ヨリ直
チニ無欲ニ論及スル能ハス必ラスヤ其中間ニ
介入スル所ノ一種ノモノ發見シ以テ三種トナ
サハル可カラス
抑モ宇宙間ノ事物物件人類及行為ヲ視ルニ三
種ノ別ナリ仮令ハ我カ位地ヨリ之ヲ視ルコト
ヲ得ヘシ又我輩交際上ノ位地ヨリ之ヲ視ル
コトヲ得ヘシ或ハ自他ニ関セス全ク懸隔シク

ル位地ヨリ之レヲ視ルコトヲ得ハシ合之ニ做
ト人欲ヲ三個ノ位地ヨリ視テ以テ分析スルコ
トヲ得ハシ即チ我カ位地ヨリコノ欲ヲ視レハ
私欲ナリ又我輩交際上ノ位地ヨリ之レヲ視レ
ハ則チ幾分カ私欲ハ殺カレテ自由自在ニアラ
ハルモノヲ視ルヘシ之レヲ名ツケテ公欲ト云
フ又自他ニ関ヤス全ク懸隔シタル位地ヨリ之
レヲ視レハ無欲是レナリ此ヲ以テ第一ノ位地
ヨリ事物ヲ視レハ恰モ專肆自放ナルカ如シ第
二ノ位地ヨリ之レヲ視レハ交際上ニ干涉スル

ナルヲ以テ其廣狹ニ從テ多少ノ障碍アルヲ
知ルヘシ而シテ第三ノ位^地ニ依レハ全ク交際上
ノミニ於テ久シク事ニ當リテ練磨老成ノ功ヲ
積ミタルノ上ニアラサレハ知ルコト能ハス故
ニ之レヲ知ルハ大ニ智カト心思ノ勞ヲ要ス而
シテ今三個ノ位地ヨリ視タル所ノ人欲ヲ細分
スルコト左ノ如シ

第一項

私欲^{イキスチヨク}

私欲ハ物件ニ関スル所以ニシテ自
己ノ情意ト感覺ヲ満足セシムルニ

第一条

止マリ乃チ左ノ二ヶ条ヲ包ム

天性ノ欲 飲食安息運動ノ如シ

第二条

人造ノ欲 安愉便利奢侈ノ如シ

第二項

（三）スルヲク
公欲

公欲ハ社會ニ関スル所以ニシテ交

際上ノ情意ヲ満足セシムルニ止マ

ル乃チ左ノ三ヶ条ヲ包ム

第一条

親戚ノ情及友情

第二条

希望ノ情 感服称誉及ヒ他ノ崇

尊ヲ好ムカ如シ

第三条

情ノ發覺

愛憎恐懼悔後ノ如シ

第三項

（四）トリスチク
無欲

無欲ハ行為上ニ関スル所以ニシテ

只公平至理ノアル所ニ止マル即チ

左ノ如シ

信義 忠誠 恩謝 寛裕 仁惠

却説私欲ヲ一等ニ居ク所以ハ三者中至大至重

ニシテ且ツ洪大ノカアル而已ナラス其他二者

ノ基礎トナルカ故ナリ又公欲ヲ二ホニ居ク所

以ハ其用トカトニ於テ稍ヤ劣レル所アレハナ

リ而シテ無欲ヲ三等ニ居ク所以ハ尚ホ一才降
ル所アレハナリ今コノ三者ノ世ニ現出スルノ
次序ヲ地質學上ニ於テ説クハ私欲ヲ以テ勸
業カノ第一現出ノ地層ト云ヒ公欲ヲ以テ第二
現出ノ地層ト云ヒ又無欲ヲ以テ第三現出ノ地
層ト云フモ敢テ不当ナルナカラシテ公欲
ト無欲ト二者ハ私欲ト懸隔シテ全ク殊異ノモ
トト虫モ然レ其源ハ皆ナ私欲ヨリ發出ス即チ
欲ハ情コト生シ情ハ物ニ觸レテ發スルカ如シ
私欲ヲ細分シ天性ノ欲ト人造ノ欲トニ様トナ

天性ノ欲ノ区域ニ飲食ノ欲ヲ以テ第一ト
シタル所以ハ其需ノ最モ急ニシテ且ツ其影
響スル所種ノテ大ナレハナリ故ニ宇宙何レノ
地ヲ問ハス人々ノ勞カスル所以ハ殆ント皆コ
ノ食欲ニ根スト云フモ敢テ不可ナルナシ又野
蠻人種中争鬪常ニ止マサル所以及ヒ往昔人類
ノ移住シタル所以又古今ヲ問ハス宇宙ノ人種
此處彼處ニ往來轉動スル所以ハ或ハ食欲之レ
カ近因トナリテ然ルモノアリ或ハ食欲之レカ
遠因トナリテ然ルモノアリ只ソノ原因ニ遠近

ノ差アルニ止アリテ到底食欲之レカ根原タル
ニ外ナラス
抑モ人類タルモノハ学生ノ為ニ食スヘキヲ却
テ食ノ為ニ学生スルモノ多シ而シテ宇宙廣口
シト虫モ人類ノ大衆ハ概子皆然ラサルナシト
云フ我輩以為ラク宇宙ノ人口四分ノ三ハ其得
ル所諒カニ饑渴ヲ免カレテ雨露ヲ凌クニ足レ
ハ満足スルモノ、如シ就中人類ノ大集セル東
邦ニ於テ、其情態斯ノ如シ嘗テ「ブラッセル」氏云
ハ、ルア「曰ク」ヒン「ドール」ノ雇工ハ僅カニ日毎ノ

米食ヲ欲スルノ外一トシテ其他ノ需用ヲ知ラ
シ而シテ氣候ノ炎熱ナルニ因テ緻密ノ家屋敷
種ノ衣裳ヲ要セス故ニ一日ノ饑渴ヲ凌クニ足
ルノ物ヲ得レハ即チ逸シテ勞ヲ止ム此ヲ以テ
彼令ヒ其賃銀高價ナリト虫モ決シテ彼輩ヲシ
テ学生ノ快樂ヲ得セシムルモノニアラス却テ
其常情ノ勞役カヲ減少セシムルノ外ナシト
又博物学士「ウォーレス」氏ハ「マール」多島海諸島
ノ住民カ常食トスル所ノ西穀樹ノ用ヲ算シテ
云ヘラク「一西穀樹ハ一人一年間ノ食ニ充ツル

ニ足ルヘシ而シテ二人五日間ノ勞ニ就テ其菓
實^ニヲ摘取セハ二女モ亦五日間ノ勞ニ就テ之ヲ
茶煎シテ乾糕ニ製セハ以テ直チニ食スルヲ得
ヘシ斯ク常食ノ廉賤ナルカ為メニ却テ其住民
ノ營生ニ頗フル弊害ヲ醸シ米穀ヲ産スル地邦
ノ住民ニ比スレハ遙カニ下賤ノ營生ヲ為スニ
至レリ又其地方ニ於テハ野菜或ハ樹菓ヲ産セ
サルカ故ニ許多ノ住民ハ只僅カニ西穀樹ト些
少ノ魚類ヲ以テ生活ス云々ト又曰ク其民ノ棲
息セル状態ヲ説クキハ東方多島海ノ諸蠻ヨリ

下等ノボルニヤ島ノ野蠻ヨリモ尚ホ劣レリト

ホハリ
讀者ハ之ヲ觀テ彼ノ「ハシボル」氏カ墨斯壺國
ニ芭蕉ノ豊饒ナルカ為ニ却テ其土民ニ害アル
ノコトヲ説述シタルヲ想ヒ起スベシ蓋シ墨斯
壺土人ノ如キモ亦其欲ハ食ヲ求ムルニ外ナク
シテ苟シクモ食欲足レハ則チ毫末ノ勞ヲ為
サバブルカ故ニ其勸業カヲ惹起セシムルコト能
ハス而シテ又愛蘭土ニ於テ馬鈴薯ヲ種裁セシ
カ為ニ一時其住民ノ勞役上ノ習慣ニ害アル影

響ヲ生シタルコトアリシ

又「モルカス」氏歐洲ノ傭工社會ノコトヲ概説シ
テ云ヘテク一傭工ノ一家姑ヲク饑渴ヲ凌リニ
足ルノ食ヲ得ルハ僅カニ二三日ノ勞苦ニ就ケ
ハ即チ可ナリ然レ尚ホ少シク營生ノ安逸ヲ求
メシニハ出ホ三四日間勞スルニ非サレハ之ヲ
得ル能ハサルニ於テハ其欲スル所ノ物ト其勞
トヲ考較シ来リテ彼輩ハ一般ニ一大難苦ナリ
ト思意ニハ情態ヲ免カレスト令之カ適例ハ
嘗テ千八百七十四年ニ「イングリランド」及「ウェール」

ニ於テ右炭坑之ノ為メニ賤傭ノ賃銀一時騰
貴シタルカ故ニ彼輩ハ一週ニ三日間ノ勞苦ニ
就テ餘ル三日間ハ遊手怠慢シタルノ情態是レ
ナリ

第二條ノ細分ハ人造ノ欲ニシテ則チ天賦ニア
ラサル希望ナリ此ヲ以テ人類皆必ラスシモ之
アルニアラス且ツ人々ノ事情ニ依テ厚薄ハ差
アリ故ニ之レヲ食欲ニ比セハ稍ヤ至重ナラサ
ルモノ、如シ然レ人トシテ苟シクモ衣食住ニ
足ラシメハ便利ヲ欲シ快樂ヲ思ヒ華移ヲ好ム

ハ亦常^情ノ然テシムル所ニシテ百物新タニ外ヨ
リ誘導スルニ從テ物欲内ニ慙慙スルモノナリ
試ニ看ヨ南海島ノ住民ハ常ニ一時間ノ勞役ニ
就ケハ一日ノ食ヲ得ルニ足ルト虽モ或ハ歐洲
製出ノ物品ヲ見テ忽チ嗜好ノ情ヲ發シ之ヲ得
シカ為ノニ尚ホ數時間ノ勞役ニ就クヘシ又曾
テ一個ノ^フチ^ト土民ハハ刀斤斧或其他瑣屑
ノ物品ヲ得シカ為ニ歐洲人ノ為ニ種藝ノコト
ヲ為シ三月若シハ六月間モ其地ニ止マリテ
勞苦ニ就ケリト云ク而シテ彼之ヲ得タルヤ否

ヲ忽チ其他ノ物品ヲ嗜好シ之ヲ得シカ為ニ好
シテ尚ホ幾多ノ勞苦ヲ為セリト云フ
凡ソ物欲ノ厚薄ヲ論スレハ文明ノ民ト虽モ亦
野蠻ノ民ト異ナル所ナシ蓋シ一希望ヲ満足セ
シムルハ随テ亦一希望ヲ發起シ饜クナモノ求
ニシテ愈足リテ愈求ム是文明ヲ補益スル所以
ナリ而シテ満足ハ即チ之ヲ揮揮セシムル一
具ニアラス試ニ思ヘ今日ノ文明國ハ百輩経練
シテ邦家ノ富有ニ數百歳ノ遺傳ヲ受ケ學術ノ
發明アリ勞ヲ省ク機械ノ改良アリ尚ホ且ツ汽

車ノ便アリト云フト至モ先人ヨリ其劣スル所
少ナキカ抑モ亦其足ル所多キニ居ル欲果シテ
皆然ラサルヲ知^ルナリ蓋シ物價愈廣ナレハ其
物呂ハ愈貴重セラル、ナリ又物材愈多ヤハ
愈之ヲ消耗ス昔者一針ヲ手縫スルモ今ハ二十
針ヲ同シ時間ニ縫フ機械ヲ發明セリト至モ其
之レヲ費消スル所亦從テ多キカ故ニ物ノ價值
ハ其効用如何ニ関セス只其有無多少ニ因ルノ
ミ而シテ一欲^ニ足リテ一欲^ニ發シ新陳交替シテ到
底^ニコノ事ノ^變スル期ナカルヘシ然レ疾ニ物欲

ノミ増張シテ百事ニ適合セサル國ハ決^シテ
最上ノ文明國ト思考スヘカラス只野蛮ヲ極ク
ル國ト云フヘシ經濟學士^トセ^リ氏曰ク最モ多ク
生産シ最モ多ク消費スルノ國ハ最モ開化シタ
ル國ナリト云ヘリ之ヲ要スルニ物欲ヲ満足セ
シムルノ物件最モ夥多ナルノ國ナリ
第二項ノ公欲ヲ茲ニ細論セントス抑モ人類ノ
交際ハ心思ノ感應ト支体ノ組立トニ因テ之ヲ
ナキヲ得ス是人類ノ獨居スルコト能ハサル所
以ニシテ人孰カ父母ナキモノナカラン或ハ兄

弟姉妹親戚モ亦アルヘシ此ボノ交際ハ人トシ
テ免カルベカラサル所ニシテ其交際ハ尚ホ茲
ニ止マラス必ラスヤ用友知己ニ及ビ終ニ大ニ
社會ニ及フモノナリ而シテコレ等ノ交際ヨリ
シテ情意ト希望ノ二者ヲ發生スヘシ之ヲ是レ
交際上ノ情ト云フ然ルニ歸細法ヲ説クノ論理
学士ハ余カ云ヘル第一項ノ部分内ニ此ノ如キ
情ハ属スヘキモノト云テ第二第三項ノ部分内
ニハ之レナシト論セリ若シ此論ニ從ハハ交際
及終身上ノ欲ハ絶テアルナシ只一身上ニ関ス

ル欲ノミヲ存スルモノナリト云ヘルモリ如
シ是レ我輩ノ解セサル所ナリ今試ニ説クニ父
母妻子ノ交際^{上ノ情卷ヨリシテ純レカ之カ為ニ身役上}ノ感覺ヲ惹起セサルモノアラシ
乎又人トシテ友誼ノ為ニ絶テ勞スルコトナカ
ラン乎又職ユヲ以テ説ケハ其主人ノ贖祿ヲ得
ンカ為或ハ又其朋類ニ尊敬セラレント欲スル
カ為ニ務ルル所ナカラシ乎又貴賤貧富ノ別ナ
リ總テ人ノ行為ハ常ニ他ノ称揚ヲ得シコトヲ
欲セサラン乎又自己ヲ利スル所アリト虽モ他
人ノ禍患ヲ醸シ或ハ終ニ世上ノ怨恨ヲ受ケ或

其屈辱ヲ蒙ランコトヲ恐レテ常ニ斯ノ如キ
行為ヲ戒慎セサルコト無カラシカ果シテ皆之
レアルヤ明了ニシテ斯ノ如キ意思ハ皆大ニ勸
業カヲ振起セシムルモ亦論ヲ待タス然ルニ彼
ノ論者ノ之ヲ辯スルハ何ソヤ
又愛怒恐懼ノ如キ情ハ第二項ノ内ニアルヘキ
ハ当然ニシテ且ツ此オノ情ハ勞役上ニ関スル
所極ノテ重大ナルニ彼ハ論者ハ更ニ論セサル
ハ何ソヤ今我輩ヲシテ之ヲ論セシメハ斯ノ如
キ情ハ人々ノ好悪ヲ増減セシムルモノト云ハ

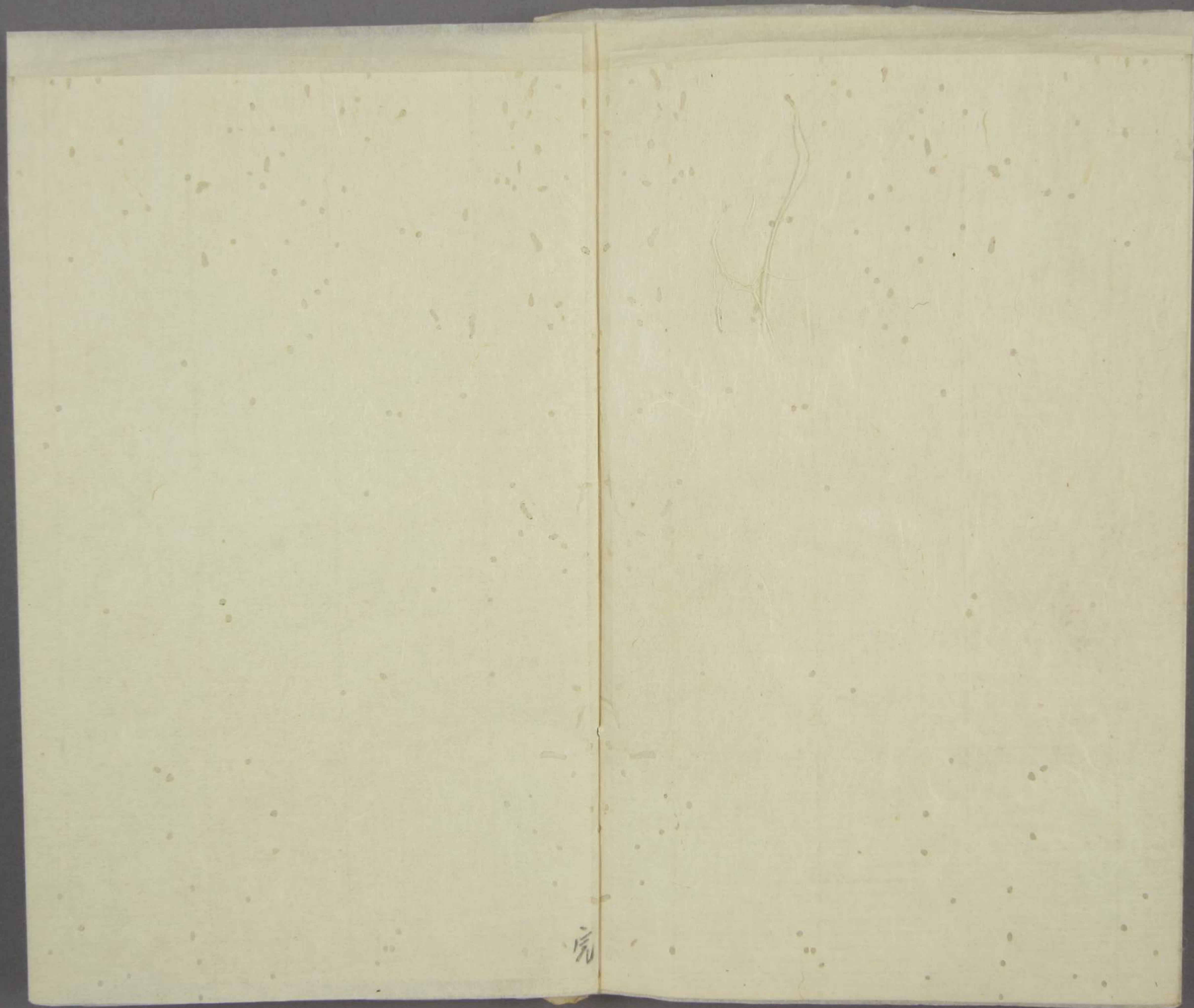
サルヲ得ス仮令ハ我カ愛スル所ノ人ハ害ヲ蒙
ラスヲ欲セサルノミナラス彼ノ為ニ務ムルヲ
欲スヘシ又我カ怒ル所ノ人ハ彼ノ為ニ毫モ務
ムルヲ欲セサル而已ナラス曩キニ彼ノ為ニ為
サント決心セシコトモ令ハ却テ彼ヲ利スルコ
トモアラシカ故ニ之ヲ為サハルコトアルヘシ
且ツ營業上ニ於テ彼ト先ヲ争フカ如キコトア
ラハ彼カ損失ヲ以テ我ヲ利セント欲スルノ念
慮ハ之カ為ニ愈深カラシムベシ而シテ人性ニ
此ノ如キ意思アルヲ措テ問ハサルハ抑モ何等

理ソヤ思フニ此ノ如キハ人性ノ鄙劣ナルヲ
以テ彼ノ論者ハ之ヲ論セサルヘシ然レ其
リテ豈ニ之ヲ論ヤサルノ理アラシ哉但ク言フ
人性果シテ我説ク所ト抵觸セハ我論ノ非ナル
ハ敢テ論ヲ待タサル所ナリ
第三項ハ則チ無欲ノ部ニシテ之ヲ前ノ二者ニ
比スレハ其閑スル所僅々ノ事項ニ止マルト雖
モ勸業上ニ閑スル所亦大ナリト云ハサルヘカ
ラス仮令ハ人トシテ宜シキヲ得ルノ標準ナカ
ル可カラス而シテコノ標準ハ身ヲ修メ行ヲ正

フスル所以ニシテ所謂義務是ナリ又是ヲ面目
ト云フコノ標準ニ從ヘハ所謂私利ナルモノヲ
放擲シテ義務上ニ事ヲ為スコト屢アリ之レヲ
例セハ負債ノ督促ヲ受クハ素ヨリ其義務ヲ欠
クモソト雖モ未ダ之カ督促ヲ受ケサルニ先ツ
テ償却スルカ如キ是ナリ又償弁スヘキ會計中
誤謬アリテ我カ利ス今之ヲ改メサルニ於テハ
發露スルナシト雖モ之ヲ改ムルカ如キ是ナリ
又其價其物ニ相当ナリト信スルノ故ヲ以テ請
フ所ヨリ多分ニ投与スルカ如キ是ナリ又廣造

品ヲ街販シテ能ク高利ヲ得ルト虫也之ヲ為カ
スシテ正品ヲ賣ルカ如キ是ナリ又負債ヲ債主
ニ皆済シテ法律上全ク其責ヲ蟬脱スルカ如キ
是ナリ而シコノ標準ニ因レハ人情忍ビ難キニ
忍フヘキコトアリ仮令ハ情誼ニ因テ緝サレタ
ル人ト過チテ曲事ヲ為シ之カ為ニ其苦痛ヲ受
クルヲ目前ニ見ルカ如キ是ナリ又名利権柄出
身ノ途ヲ棄テ心ニ慊キ義務ヲ尽スコトアルカ
如キ是ナリ凡ソ斯ノ如キ場合ニ於テ人タルモ
ノハ私欲或ハ交際上ノ情意ヲ制禁シ以テ公平

至当ト思意スル所ヲ為シ或ハ名分ノ立以ヘキ
モノト断定スル所ヲ為スヘシ
令斯クノ如キ義務ノ由テ起ル所ノ源因ヲ茲ニ
論究スルハ不用ニ属スヘシ如何トナレハ其源
因ハ仮令自然ニ出ルモ將タ工夫ニ出ルモ實際
上斯ノ如キモノアリト云ハ、足ルノミ之ヲ要
スルニ無欲ノ性ハ茲ニ説クカ如シ



完

